

**特集①: Hondaと自動車教習所との連携による活動**

# 交通安全の輪を 全国に広げるために



津嘉山自動車学校と本田技研工業(株)安全運転普及本部熊本普及ブロックによる沖縄工業高校での交通安全教室。Honda自転車シミュレーターを活用した指導が行われた



**Hondaでは地域で交通安全活動に取り組む自動車教習所と連携し、全国に交通安全活動の輪を広げていく取り組みを進めている。今号では、Hondaのノウハウを活用して、交通安全活動の拡充に努める自動車教習所の取組みに焦点をあて、連携の意義と可能性を探る。**



Hondaの交通安全情報紙  
**The Safety Japan**  
Since 1971

6\*7  
2010  
JUNE・JULY

●編集室: 本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内  
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1  
TEL 03(5412)1736  
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/  
●編集人: 千葉英雄  
※年間購読をご希望の方は、下記までお問い合わせください。  
(株)アストクリエイティブ 安全運転普及本部係  
TEL 03(5439)1191 E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

SJ-Netは

## CONTENTS

- 特集①: Hondaと自動車教習所との連携による活動  
**交通安全の輪を全国に広げるために……①**
- 特集②: 第10回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会  
教習指導員が切磋琢磨し、  
質の高い指導力を身につける場……③
- 危険予測トレーニング(KYT)/合図の誤解……④
- 交通安全指導「知って得」情報/交通安全指導における効果的な話し方……④
- SJクイズ……④
- DOCUMENT EYE ②⑦/ドライバーの運転姿勢を観察する……⑤
- 地域のチカラ/福島の交通安全活動……⑥
- 現場訪問/JICA青年海外協力隊……⑦
- TOPICS/埼玉県警察本部・高齢者いきいき運転講座……⑦
- NEWS REVIEW/平成21年度国際交通安全学会研究調査報告会  
ならびに学会賞贈呈式……⑦
- 教育最前線/テイ・エス・テック(株)・自転車交通安全教室……⑧
- 読者の声……⑧

## 沖縄に広がる 交通安全教育

近年、自動車教習所は初心運転者教育の場としてだけでなく、地域で交通安全教育を実践する場としても期待されている。最近では子どもから高齢者まで、幅広い年代への交通安全教育に取り組む教習所が増えており、ホンダは交通安全の輪を全国に広げるため、こうした教習所へのサポートを行っている。

現在、ホンダが提携している自動車教習所は全国で35校(2010年5月末現在・2面参照)。この活動の背景には、「交通安全」への同じ志を持つ教習所に対し、ホンダの持つ教育プログラム・教材の提供、指導者のレベルアップ教育の提供などを通じて、各地域の教習所が主体的に取り組む交通安全活動を、側面からバックアップしていきいたいという想いがある。

そうした教習所の1つ、沖縄県島尻郡にある津嘉山自動車学校では、以前から初心運転者への教育のほかに、幼児や高齢者を対象とした交通安全指導にも力を注いできた。

同校では毎年、市内の小学1年生を対象に交通安全教室を実施。腹話術を使ったユニークな座学のほか、校庭を使って横断歩道の渡り方や、巻き込みの危険性を学ぶ教育、ダミー人形を使った死角の教育などを行っているほか、秋には高齢者向けの交通安全教室も実施。高齢ドライバーに実際にクルマを運転してもらい、制動体験、シートベルトの重要性を確認する体験を行うなど、充実したプログラムを提供している。

こうした交通安全指導は、津嘉山自動車学校ではすでに定例化しているが、多様な指導カリキュラムを持っていないとマンネリ化に陥りやすい。加えて、幼児と高齢者以外の層への教育ノウハウが不足しがちだったという実態もあり、昨年からはホンダとの連携を強化する方針を打ち出した。

その一環として5月24日、自転車通学者が多い地元の沖縄工業高等学校の生徒を対象に、津嘉山自動車学校はホンダとの共催により、ホンダ自転車シミュレーター(以下、シミュレーター)を活用した交通安全教室を開催した。同校の副管理者を務める



津嘉山自動車学校副管理者の  
與儀喜史さん

與儀喜史さんは、こうしたホンダとの連携の意義について次のように語る。

「交通安全活動の普及に対する思想が一致しており、今後はさらに連携を深めたいと考えています。ホンダには、地域に根ざした活動を全国的に展開したいという想いがあり、私たちのほうには、地域の交通安全教育センターとして成長したいという想いがあります。双方の想いが合致しており、今後さまざまな面でサポートをお願いしたい」。

同校ではこれまで、高校生に二輪車の教育を実施したことはあったが、最近ニーズが高まってきた自転車教育についても、取り組んでいく必要性を感じているという。そのため今回の教室を通じて、同校の指導員にシミュレーターを使った指導法を身につけてもらい、今後はそうしたニーズにも積極的に応えていきたいと考えた。

交通安全教室では当日、自転車点検・ブレーキのかけ方などを学ぶ座学からスタート。続いてシミュレーターを使った体験指導が行われる。生徒の代表がシミュレーターを体験し、他の生徒は大型スクリーンで確認するかたちで指導が進んだ。シミュレーターに乗った生徒は傘をさしたり、携帯電話を使用しながら自転車を運転するなど、危険を安全に体験するなかでの指導も実施。スクリーンに危険な状況が映し出されるたびに、会場からは「危ない!」といった声があがった。

こうした指導について、沖縄工業高校で生徒指導を担当する伊川祐也教諭は、「これまで自転車通学をする生徒は少数だったのですが、近年になって急激に増えてきたため、安全教育の必要性を感じていました。シミュレーターを使った実践教育は非常にありがたく感じています。こうした指導が他校にも広がって、沖縄全体の安全意識が高まっていけばと期待しています」と語っていた。

※Honda自転車シミュレーター=自転車の交通ルールとマナーをわかりやすく伝え、危険予測能力を高めることを目的に、Hondaが開発した体験型教育機器。詳細は右記ホームページを参照。http://www.honda.co.jp/simulator/bicycle/

# 特集①: Hondaと自動車教習所との連携による活動 — 交通安全の輪を全国に広げるために

## 次世代を担う指導員の養成を

青森県内の青森・弘前・八戸・浪岡の4カ所でモータースクール(指定自動車教習所)を運営するマルエス自工(株)も、最近になってホンダとの連携を強化し、交通安全教育の拡充に努めている教習所の1つである。

同社でもかねてより、交通安全教育を生涯教育ととらえ、子どもから高齢者に至るまで、さまざまな講習会や安全教室を実施してきた。例えば高校生向けの指導だけでなく、毎年4つの教習所で、県内の25校の高校生を対象に安全教室を実施。その他の年齢層への指導も合わせると、年間で60回以上の交通安全教室を実施しているという。

マルエス自工(株)がホンダとの連携を深めたのは2008年から。同社でもホンダの自転車シミュレーターを導入して、高校生や高齢者向けの自転車教室をスタートさせたほか、今年にはホンダの上席研究員を招き、社員向けに先進安全技術の勉強会なども催した。

「当社では今年4月、交通安全教育センター部門を立ち上げ、交通安全の活動は、この部門を中心に取り組んでいます。実は平成11~13年に同じ部門を設け、安全教育に取り組んだことがあったのですが、当時はまだ、こうした活動が社会で認知され始めた



青森モータースクールでも、高校生向けの交通安全教育にHonda自転車シミュレーターを活用



青森モータースクール副校長の名古屋武一さん(左右は青森モータースクールのマスコットキャラクター)

ばかりだったこともあり、活動がなかなか軌道に乗らず、3年で廃止になりました。しかし、交通安全活動は地道に継続してきました。徐々に活動が地域に定着してきましたことから、今年も一度交通安全教育センター部門を立ち上げ、現在はその強化に取り組んでいると語ります。同社・青森モータースクール副校長の名古屋武一さんは語る。

「安全教育は、長い年月をかけて継続していく活動ですから、現在中心となっている指導員だけでなく、これからは次世代を担う若い指導者を育てていく必要があります。ホンダは指導者育成においても高度なノウハウを蓄積しておられるので、今後はそうした面でも協力をいただき、交通安全教育を担う人材の強化をはかっていきたいと思っています」。

また、既にホンダと連携している、同じ志を持った他の教習所と情報交換ができるようになったことも、大きなメリットがあるという。同業者の声を刺激するのと合わせ、今後はノウハウの共有化もはかっているように、全国レベルでの自動車教習所間の連携も模索していきたい考えだ。

## 地域性を考慮した企業研修を実現

北海道には、交通安全の普及に熱心な教習所が連携し、それぞれが互いにサポートし合いながら、交通安全教育を展開しているHSE(北海道セーフティ・エデュケーション)ネットワークという、道内の自動車学校有志が設立した団体がある。

現在、このネットワークへの加盟校は10校。札幌や室蘭、苫小牧、紋別、北見、釧路、旭川、岩見沢などの広域をカバーし、道内で活動する電力、郵便、製菓などの企業を対象に、さまざまな安全運転研修を行っている。

このネットワークの設立を最初に呼びかけ、現在も指導的な役割を果たしている麻生自動車学校(株)麻生自動車センター(札幌市)で代表取締役を務める菅茂生さんは、HSEネットワーク設立の背景について次のように語る。

「北海道では、冬場は凍結路や雪道を走ることに、この環境に慣れない道外からの赴任者への寒冷地走行指導への企業ニーズが、非常に高いという特徴があります。以前は私たちのほうで、このニーズに応えるために北見や旭川まで出張していました。が、私たちだけではカバーしきれない。そこで、志のある道内の教習所に参加を呼びかけ、設立したのがHSEネットワークです」。

菅さんたちが企業研修で心がけているのは、まず相手のニーズをよく聞き、初心者違反者・事故多発者向け教育、勤務年数別の教育など、企業ニーズにあったきめ細かなプログラムを提供すること。そのため指導員も、企業研修に特化した指導員養成に取り組み、カリキュラムを充実させてきた。麻生自動車学校ではこのほか、幼稚園児や小中学生、高校生を対象とした交通安全



麻生自動車学校(株)麻生自動車センター 代表取締役の菅茂生さん

教室や、高齢者向けの講習なども積極的に展開している。こうした教育を展開していく上で、菅さんたちが重視しているのは「習いたい人が、習いたい時に、習いたい場所で」学べる交通安全教育だという。

「従来の講習会は、プログラム自体が画一的なものになりがちだったので、私たちがやる場合はもっと現場のニーズに則した、お客様本位のものにしたいと考えています。例えば住民が不安視する地元の交差点があれば、その交差点を念頭においた横断歩道の渡り方を集中的に指導するなど、あくまでも教育を受ける方々のニーズに合致した指導を行っています」。

このように独自の信念で、長年にわたり交通安全教育に取り組んできた麻生自動車学校とホンダが関わるようになったのは、もう20年以上も前から。これまでも、さまざまな面でアドバイスを受けてきたという。

「ホンダの交通安全教育で感心するのは、プログラムが優れているだけでなく、指導にあたるインストラクターの挨拶から立ち居振る舞いまで、すべてがプロフェッショナルであること。今後はそうした人材育成のノウハウなども取り入れて、HSEネットワーク全体の底上げをはかっていきたいと思っています」。

## より質の高いサービスの提供に向けて

今回紹介した自動車教習所に限らず、最近では地域の交通安全教育センターとなるべく、各地域の教習所がそれぞれの地域事情に合わせて、積極的に交通安全教育を展開するようになってきている。しかし一方で、日本は近年、人口減少局面に入り、自動車教習所の経営も、ある種の転換期を迎えているという現実もある。

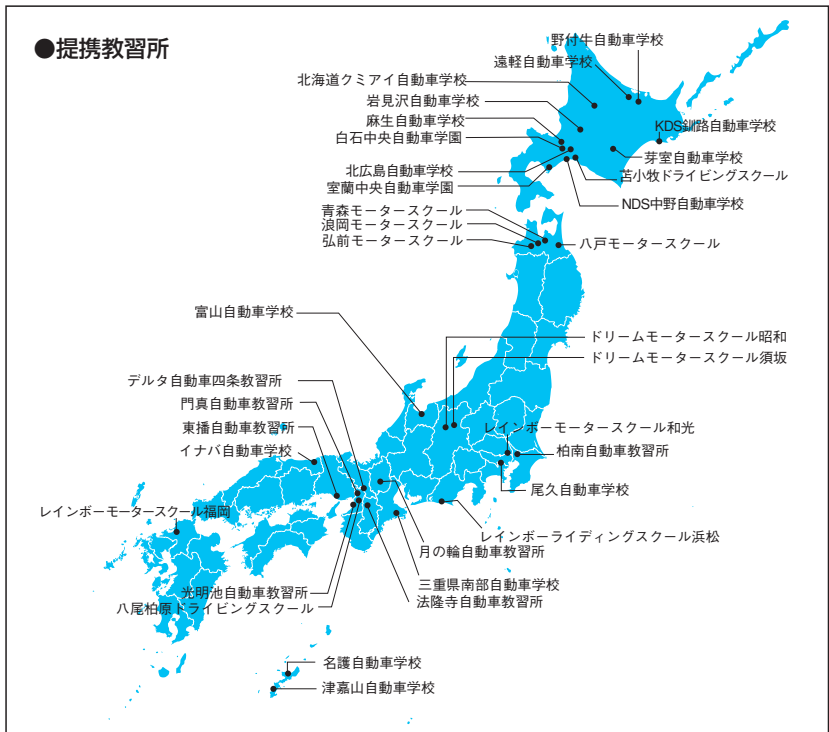
こうした状況下で、自動車教習所における交通安全教育のあり方は今後、どのように考えていくべきなのだろうか。麻生自動車学校の菅さんはその点につ

いて次のように語る。

「私たちは今後も、地域社会にしっかりと根ざし、交通安全で地域に貢献することを経営の柱に据えて、事業を展開していきたいと考えています。しかし、それはボランティア精神のようなものだけでは実現できない。採算性もある程度念頭において、質の高い交通安全教育センター事業として確立させていく必要があるでしょう」。

企業研修については、最近では物流部門で実績のある運輸会社などが、ドライブレコーダーを使った新しい安全運転研修サービスを始めるなど、ここへきて新しい動きも出てきています。こうしたなかであって、私たちの強みは教習用コースを持っていることですから、このインフラを十分に活用し、より質の高いサービスを提供するよう努めていくつもりです。こうしたことを実現するために、ホンダとの連携は重要な意味があると思っています」。

さまざまな企業・団体が交通安全教育に取り組むことで、社会全体の交通安全への機運がさらに高まり、交通安全教育の内容も多様化していく。ホンダはこうした情勢のなかで、今後も交通安全の輪を全国に広げていくべく、志の高い自動車教習所とさらに連携を深め、積極的にサポートしていきたいと考えている。



特集②：第10回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会

# 教習指導員が切磋琢磨し、質の高い指導力を身につける場

6月3日、4日の両日、鈴鹿サーキット交通教育センター（三重県鈴鹿市）にて、「第10回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」が開催された。この大会は本田技研工業（株）安全運転普及本部が主催し、2001年より毎年開催され、今年で10周年という節目を迎えた。同大会がこれまで果たしてきた役割を参加選手と教習所関係者からの意見をもとに振り返る。



全国82校の教習所から171名の選手が参加



開会式で挨拶する大山龍寛・本田技研工業（株）安全運転普及本部部長

## 全国から高い志を持った教習指導員が集結

快晴に恵まれて開催された、「第10回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」。今回は全国82校の教習所から171名の選手が鈴鹿サーキット交通教育センターに集まった。

開会式では、大会会長の大山龍寛・本田技研工業（株）安全運転普及本部部長が大会開催の目的について「ホンダは、モビリティ社会で暮らす、すべての人に安全を提供するという基本的な考え方を実現するため、様々な安全運転普及活動に取り組んでいます。その活動の一つとして、この大会は全国の教習所のご支援を頂きながら開催しており、10周年を迎えることは大変意義深いことと思っています。本大会は、地域の交通教育センターとして、安全運転普及活動に取り組み教習指導員の皆様のさらなる指導力の向上、自己研鑽の動機づけ、また全国からお集まりいただいた皆様の交流の場としていただくことを目的に開催しています」と語った。

## 指導力の向上につながる大会

この大会に2003年より参加している光自動車学校（山口県光市）の山根慎一さんは、「最初は、普通にやればできるだろうと思っていたのですが、自分の技術レベルが足りない、練習が足りないことを痛感しました」と、初参加の時を振り返る。大会に参加し続けることで、山根さんは「自己研鑽」「指導力向上」「交流」の重要性を実感したという。そして、日頃の教習生への指導に対する意識も変わってきたそうだ。

「大会のためのトレーニングを重ねるなかで、基本に忠実な操作が最も安全な運転につながるということがわかりました。さらに、それを教習生に理解してもらうためにはどう伝えるべきか考え、日頃の指導も工夫するようになったわけです。教習生にわかりやすく伝える力は、この大会に参加して磨かれたと思います」。



光自動車学校の山根慎一さん。今回の大型二輪部門「コーススラローム」で1位という結果を残した

また、山根さんは全国の教習指導員との「交流」も、大きな収穫ととらえている。「今では、教習指導員としての技術を極めるという同じ目的をもった仲間との交流も深まっています。近隣6校の教習指導員との山口県合同練習会や、この大会で知り合った近畿エリアの教習指導員とともに合同練習を行っています。各教習指導員がお互いの考えを出し合って、切磋琢磨しています」。

## 教習指導員の努力が教習所全体の団結を生む

一方、教習所としてはこの大会をどう位

参加選手たちは、普通二輪部門、大型二輪部門、四輪部門に分かれ、運転技術の正確さやタイムを競う各4種目の実技競技と、ブレーキングをテーマとした実技指導力の筆記に取り組んだ。



四輪部門「コーススラローム」

四輪部門「フィギア」

大型二輪部門「コーススラローム」

普通二輪部門「一本橋」

置づけているのだろうか。月の輪自動車教習所（滋賀県大津市）代表取締役の前原敏文さんは、2001年の第1回大会より選手を送り出している背景を次のように話す。「大会で結果を出すために、選手個人は日々努力しています。さらに、その姿を見ている同僚も自然とそれをサポートし、教習所全体の団結力が醸成されています」。



月の輪自動車教習所代表取締役の前原敏文さん

同教習所では1人の教習指導員が2〜3年出場を経験し、その後、別の教習指導員に選手を委ねるといった方針で大会に挑んでいる。「私たちは、1人でも多くの教習指導員に経験してほしいと考えています。自分の技術を試す機会は、なかなかありません。大会に出て評価されるということがモチベーションとなり、教習指導員が目標を持って取り組むことができます。これまでに参加した教習指導員たちが好成績を残してきたので、こうした伝統は誇りに思っています」と前原さんは話します。

## 注目を集めたHondaの教育機器

大会会場では、今年発売された新型のHondaドライビングシミュレーターをはじめ、Hondaライディングシミュレーター、セーフティナビ※の展示が行われ、選手や応援に集まった多くの人がシミュレーターを体験した。

また、今年は危険予測のトレーニングに活用できる動画KYTや、自転車シミュレーターの説明会も開かれ、教習所関係者の関心を集めた。

※Hondaセーフティナビ=「環境」と「安全」にやさしい運転を楽しく学習するための安全運転教育用ソフト。



「動画KYTの説明会」

教育機器の詳細は右記ホームページ参照。http://www.honda.co.jp/simulator/